

SV2004 イベント報告 【スポーツボランティアの広がり】

日時 / 2008年4月5日(土) 12時45分~16時

場所 / 太白区中央市民センター 中会議室

企画趣旨 / プロスポーツのイベントをサポートするボランティアは、一定期間の活動の歴史を踏まえて、さまざまな方向に広がりを見せつつあります。そのひとつは「幅広い種目」のサポートであり、「地域の課題」と向き合うことであり、自らがサポートするスポーツについて、より一体となって支援しようという動きです。一見無秩序にならべられた今回のテーマにはそんな思いがありました。

第1部 「東京マラソンをサポートする」

東京マラソン・ボランティア・リーダー 和智 章さん

最初のテーマは「東京マラソンをサポートする」と題して、今年の2月17日に開催され約3.2万人のランナーが走り、それを約1.2万人のボランティアがサポートした国内最大規模のスポーツイベントに参加し、リーダーとして活動した和智さんにお話しいただきました。和智さんご自身はサッカーのリーグのFC東京のボランティアからスタート、地域のスポーツイベントまで積極的に活動されています。その経験を生かして昨年からは東京マラソンのボランティア活動に参加、事前の研修受講・レポート提出を経てリーダーとなり、今回はフィニッシュ地点で活動されたとのことでした。



規模の大きいイベントということで、「多くのボランティアが連携して動くシステム」「そのための研修と資格制度の導入」「レポートや報告書によるコミュニケーションと改善の取り組み」など、学ぶべきものは多くありました。あわせて、ネットによるさまざまな情報発信など主催者・参加者の意識の高さが目立ちます。終了後のボランティアに対する感謝の表明も含め、如何にモチベーションを維持し高めるか、これからのボランティア活動にとって大切な視点がそこにあります。

第2部 「災害ボランティアとの連携」

(1) 災害ボランティアについて 仙台市災害ボランティアセンター 庄子 克彦さん

(2) 災害におけるボランティア FMいずみアナウンサー 阿部 清人さん

5日のSV主催イベントのふたつめのテーマは「災害とボランティア」、これはそのまま宮城における地域の課題です。近い将来必ずくるであろう震災に対し、私たちは何をすべきか、全ての人に関わるテーマなのです。

講師はお二人、一人目は仙台市災害ボランティアセンターの庄子さん、最初に仙台市の災害ボランティアセンター設置のいきさつと、具体的な業務について、さらに、中越地震の柏崎の事例(写真)を説明しながら、センターと災害ボランティアの役割について話してくれました。リスクも伴い、自

己責任・自己完結が求められる災害ボランティアは、決して楽なものではありません。一方で、前向きな気持ちさえあれば、必ず誰かの役に立つことができます。とはいえ、まず自らが被災者にならないこと、それが大事なのです。

二人目の講師は、FM いずみの阿部さん、現状の活動では M-1 で優勝した仙台出身のサンドイッチマンのイベント(ベガルタ戦)報告があり、その後、阪神大震災を背景に発達してきたコミュニティ FM の役割について話しがありました。そして、混乱を防止したり、不特定多数の人々を誘導するなどスポーツボランティアと災害ボランティアの共通性にふれて、今後の連携について提案がありました。お二人の話しをきいて感じたことは、常に災害への備えをする必要があること、また、多くのスポーツ施設はいざというときには「避難所」や「物資の集積所」となる予定ということで、私たちにとてもやるべきこと・考えることは多くあると思いました。



第3部 「bj リーグ バスケットボールの基礎知識」

Bj リーグテーブルオフィシャル 柳田 傳子さん・佐々木 優美さん

三つ目のテーマは「bj リーグ・バスケットボールの基礎知識」でした。日ごろ仙台でのゲームを中心に公式記録をつけているテーブルオフィシャルのお二人を講師に招き、基本的なルールやファールについてお話しいただきました。

ゲームが始まってしまうとテンポの早い種目であり、何故審判が笛を吹いたのか、いくつかあるタイムアウトはどんな目的で、どの程度の長さでとられているのか、果たしてあとどれくらい時間がかかるのか、などお客様に質問されてもなかなか明確に答えることはできません。せっかくサポートの活動をしているのですから、全ては無理でも基本的なことは知りたい、そう考えて企画したテーマでした。もちろんボランティアとしてだけでなく、知っていれば観客としてよりゲームを楽しみみることもできます。確かに、オフィシャルハンドブックなどにも掲載されているのですが、文字からよりも、動きも交えて確認しながら聞くことはやはりわかりやすいと感じました。

確かに、ルールをしらなくても、極端にいえばチームやその種目について何も知らなくてもボランティアとして活動することはできます。けれど、より良いサービスを観客に提供(質問に正しく答えること)したり、自分自身が楽しく活動するためには、ぜひ、かかわるイベントの内容や結果にも興味を持ってほしいものです。プロバスケットボールの「仙台89ERS」のボランティアアンケートで、研修希望のトップは「バスケットボールの基礎知識」であったことは、そうした前向きなボランティアの多さを示していると思います。